

アカスジカスミカメの繁殖地の草刈りによる斑点米被害の抑制

古川農業試験場

1 取り上げた理由

斑点米カメムシ類は、水田への侵入前、牧草地、雑草地、畦畔などのイネ科植物で繁殖する。斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメは、特にイタリアンライグラスで繁殖し、発生源対策としてイタリアンライグラスの刈り取り管理は重要である。アカスジカスミカメの第1世代幼虫の発生盛期に刈り取ることにより、繁殖地における発生密度を抑制できることを普及に移す技術第81号に参考資料として示した。そこで、幼虫の発生盛期における繁殖地の草刈りが斑点米被害の発生に与える影響について検討したところ、斑点米被害が抑制されることを明らかにしたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) アカスジカスミカメの第1世代幼虫の発生盛期である7月中～下旬に草刈りを実施することにより、繁殖地における第1世代成虫の密度が低下し、水田における発生密度および斑点米被害も抑制される（図1, 2, 3）。
- 2) 草刈りをしていない繁殖地に近接した水田では、アカスジカスミカメの侵入および斑点米被害は多くなり、少なくとも100m離れた水田まで被害が及ぶ（図3）。

3 利活用の留意点

- 1) 繁殖地からアカスジカスミカメの水田内への侵入を抑制するため、広域的な草刈り管理を実施する必要がある。
- 2) 県北部におけるアカスジカスミカメ成虫の発生は、越冬世代が6月中旬～7月上旬、第1世代が7月下旬～8月上旬に発生する。水田内に侵入するアカスジカスミカメは、第1世代以降が主体である。
- 3) 調査対象の水田は、斑点米カメムシ類に対する慣行防除を実施した。また、水田周囲の牧草地における斑点米カメムシ類の発生状況を図4に示した。

(問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

斑点米カメムシ類のIPM技術の現地実証 (2005~2006年度)

2) 参考データ

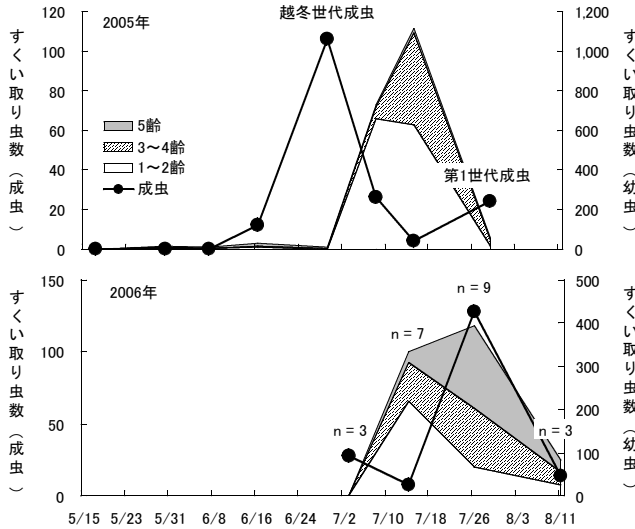


図1 イタリアンライグラスにおけるアサジカスミカメ成虫とカスミカメムシ類幼虫の発生

注1) 2005年は1地点, 2006年は数地点の平均値で示した。
注2) 調査期間: 2005年5月17日~7月29日, 2006年7月3日~8月11日

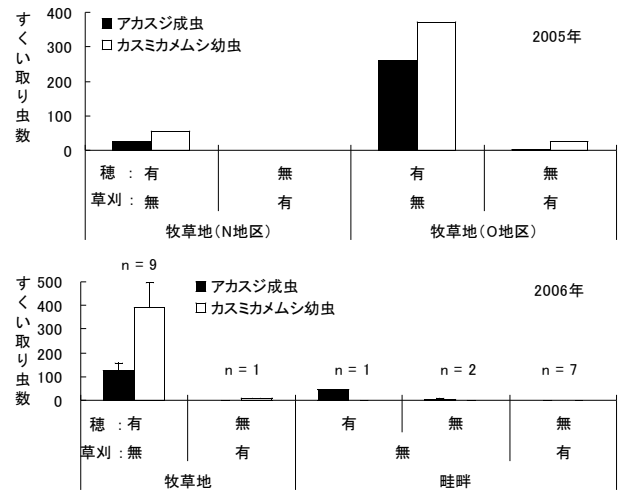


図2 アサジカスミカメ第1世代に対する牧草地・畦畔における草刈りの効果

注1) 草刈り管理は, 7月中旬に実施した。
注2) 第1世代成虫の密度は, 7月第6半旬に20回振りすくい取り調査を実施した。
注3) 牧草地は, イタリアンライグラスが主な草種である。

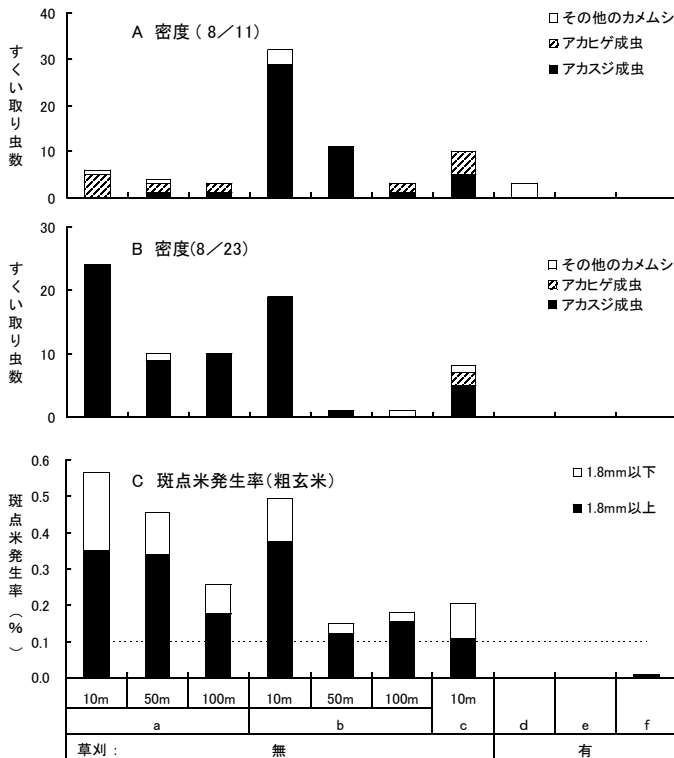


図3 水田内の斑点米カメムシ類密度(A・B)および斑点米発生率(C)に対する牧草地の草刈りの影響

注1) 図中の距離(m)は, 牧草地からの距離を示す。d・e・fは, 牧草地から10m程度の距離の地点。
注2) 草刈りの時期: 7月中旬(d), 7/26~8/3(e・f)
注3) 8/11: 水稻の出穂期~穂揃期
注4) 斑点米カメムシ類の薬剤防除回数: 2回(a・c・d), 1回(b・e・f)
注5) 牧草地は, イタリアンライグラスが主な草種である。

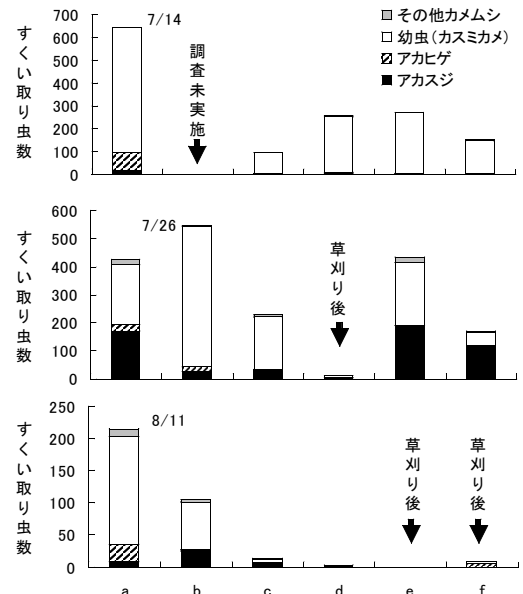


図4 水田周囲の牧草地における斑点米カメムシ類の発生

3) 発表論文等

平成18年度東北農業研究成果情報
第60回北日本病害虫研究発表会